

## 「開かれた保育、閉じた社会？——デンマークと日本の幸福観」

遠藤 裕太郎 先生

謹啓

盛夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたびの講義では、日本とデンマークにおける保育や社会制度の違いを通じて、「幸せ」とは何かを考える貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。

デンマークは、国連の「世界幸福度ランキング 2022」で 2 位、日本は 62 位と大きな差があります。その背景には、教育・労働・生活における価値観の違いがあることを、今回の学びで実感しました。特に印象に残ったのは、デンマークでは子どもも大人も「自由に過ごす」ことが重視されているという点です。学校への満足度が高く、働く環境も柔軟で整っている社会は、心の安定と動きやすさにつながっているのだと感じました。

一方、日本では行事や集団行動、細かなルールが日常に多く存在し、それが「丁寧さ」や「協調性」を育む一方で、窮屈さやストレスの原因にもなっているのかもしれませんが。デンマークでは、保育士も保護者もあまり干渉せず、子どもの自主性に任せる場面が多く見られ、それは「開放的」とも「放置的」とも捉えられます。どちらが正しいというわけではなく、それぞれの社会が大切にしている価値が反映されていると感じました。

また、「子どもをどう育てるか」という視点は、社会全体の在り方と深くつながっていることにも気づかされました。子どもを尊重する姿勢は、大人同士の関係性や働き方にも現れ、結果として国全体の幸福度に影響しているのかもしれません。

この講義を通して、保育や教育のあり方が、単なる制度の話ではなく、「人間らしく生きるとはどういうことか」という本質にかかわる問いであることを考えさせられました。自分自身の価値観や働き方も、もっと柔軟に見直していく必要があると感じています。

最後になりましたが、深い気づきを与えてくださったご講義に心より感謝申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

謹白

2025 年 7 月 5 日

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 臨床検査学分野 修士課程 1 年

久保田 菜月